

悪性大腸狭窄に対する内視鏡的大腸ステント留置術の治療成績に関する観察研究のお知らせ

【研究の目的と意義について】

2012年に保険収載されてから術前の腸管減圧目的や緩和治療目的に悪性大腸狭窄に対する自己拡張型金属ステント(SEMS)留置術は広く普及してきています。大腸ステント留置術は悪性大腸狭窄による腸閉塞に対する緊急手術を回避することが可能となったり、耐術能がなく、人工肛門造設術ができない腸閉塞症例での症状緩和を行うことができるなど非常に有用な処置です。一方で穿孔といった重篤な併発症をきたしうる処置であり、処置を行う際には慎重に手技を行うことが重要です。

本研究の目的は、当院にて悪性大腸狭窄に対する内視鏡的大腸ステント留置術が施行された患者を解析し、その治療成績を検討することです。

【対象者について】

2013年1月1日から2017年1月31日までの期間に、当院にて悪性大腸狭窄に対する内視鏡的大腸ステント留置術が施行された方となります。

【研究の方法について】

患者様の診療情報について電子カルテより調査・抽出させて頂き、当院での悪性大腸狭窄に対する内視鏡的大腸ステント留置術の治療成績および併発症の発生率とステントの開存期間を算出します。

【研究期間について】

研究期間は医の倫理委員会の承認及び病院長の許可後から2018年3月31日までとなります。

【プライバシーの保護について】

データ収集の際には、患者さん個人を特定しうる情報(個人情報)は院内で厳重に管理し、個人が特定されないよう匿名化した上でデータ収集、解析を行ないます。この取り組み、研究の成果は学会や医学雑誌などで発表されることがありますが、その際にあなたのお名前や身元などが明らかになることはありません。

また、この取り組み・研究は当院の倫理委員会の承認を得て、患者さんの権利が守られていることや医学の発展に役立つ情報が得られるであろうことが、複数の専門家により認め

られています。

本研究に関してご質問がある方や、対象となる方でご自身のデータが研究に利用されることを拒否される場合は、お手数ですが下記医師に連絡・相談頂ますようお願いいたします。

平日 9時~17時 近くの医療スタッフにお声掛け頂きますようお願いいたします。

【実施体制】

研究責任者	田附興風会医学研究所北野病院	消化器センター内科医員	西村聡
研究分担者	田附興風会医学研究所北野病院	消化器センター内科部長	八隅秀二郎

田附興風会医学研究所北野病院 消化器センター内科

〒530-8480 大阪府大阪市北区扇町 2-4-20 TEL 06-6312-1221 FAX 06-6361-0588